

JMS (Japanese Melanoma Study: 皮膚悪性黒色腫の臨床統計調査) について

(1) 背景

皮膚悪性黒色腫は欧米に比べて本邦での発生数は少なく、単一施設での症例集積が困難な腫瘍の一つである。従って、多施設の症例を集積してその発生状況の傾向や、現在行われている検査や治療の妥当性について検討する必要がある。

(2) 目的

皮膚悪性黒色腫の症例数、新規発症数、発症年齢など基本的臨床統計の把握し、累積データから、病型の変動、検査法の使用頻度や精度の推定、治療成績の推移、生存率などの予後調査を行う。

(3) 方法

研究①全国定点調査では当委員会によって作成された調査用紙を本研究の趣旨に賛同し、本研究計画に協力していただける全国の約 100 施設に送付する。各施設では調査項目を記入したうえで、当研究会事務局に送付する。事務局は各施設から送付された調査用紙を収集し、一括して登録する。登録項目は添付資料 1 に示す。

研究②全国追跡調査では、本研究の分担研究施設で倫理委員会等で本研究計画を承認していただける 21 施設の担当者が当委員会によって作成された登録項目を列挙した Web 上の登録専用ホームページにアクセスし、調査項目を入力する。過去の登録症例は死亡まで追跡調査を行う。抽出データにはイニシャルが含まれるが、個人が特定できるような情報は含まれない。

(4) 予想される医学上の貢献、および本研究課題の出口

収集したデータは統計学的な処理をし、予後因子等について検討を行う。本邦でも診療ガイドラインが作成されているが、新たな EBM、重要なデータを収集することによりガイドラインの改訂にも役立つと期待される。本研究は基本的に匿名化されており、個人が特定されることはありません。もしこの研究への参加を辞退する場合は下記連絡先に御連絡ください。

筑波大学皮膚科 藤澤 康弘 029-853-3128